



Royal Alloy

**Grand
Tourer 125**

**Grand
Prix 125**

OPERATION MANUAL

はじめに

この度はロイヤルアロイ (Royal Alloy) のスクーターをご購入いただき、ありがとうございます。ロイヤルアロイの製品は、高い技術力と信頼性に裏打ちされた商品であり、製造する RA エンジニアリング社とそのパートナー企業とが持つ、様々な目的に向けてお使いいただけるモーターサイクルやスクーターを製造してきた深い経験や、広範な知見を活用して設計されています。

ロイヤルアロイ製品が市場をリードする立場にあるのは、こうした実力があるからこそ、と言えるでしょう。本マニュアルではこのスクーターの使用方法、操作、基本的な点検やメンテナンスなどについて示しています。もしマニュアルに記載がわくお分かりにならないことがあった場合には、ご購入された販売店にお尋ねください。

ロイヤルアロイ製スクーターは、製造日時点で課せられる環境規制に適合した商品です。規制適合状態を維持するためにも、本マニュアルに記載された指示やメンテナンススケジュールを守って維持してください。

このマニュアルには、以下のような重要事項が記載されています。

⚠ 注意

必ずお守りいただきたい事項、手順が示されています。指示をお守りいただけない場合、安全性が脅かされる恐れがあります。

⚠ 注目

商品への損傷などを避けるために必要な手順が示されています。

⚠ 警告

ご自身や周辺の方にけがが及ぶような危険、あるいは商品への損傷が及ぶ可能性を避けるために必ず従ってください。

⚠ 注目

このマニュアルはスクーターの一部として取り扱いいただき、譲渡される時も含め、常時携帯してください。

⚠ 注目

RA エンジニアリング社は商品品質の向上に日夜全力を傾注しています。本マニュアルは印刷時点における最新の情報をもって更新されています。とはいえ、マニュアルの内容が実際の車両とは異なる場合があります。もしご質問などがある場合は、ご購入元の販売店にご相談ください。

⚠ 警告

スクーターにお乗りになる前に、本マニュアルを注意深くお読みください。

Contents

目次	3
安全にスクーターをお楽しみいただくために	6
各部の名称について	7
車台番号/エンジン番号	9
スクーター各部の機能と操作	10
インストゥルメントパネル	10
イグニッションスイッチ	12
ハンドルバー・スイッチについて	13
スロットルグリップ	14
ブレーキレバー	15
サイドスタンド	15
メインスタンド	15
燃料油キャップ	16
シートロック	17

フロントラゲージボックス（小物入れ）	18
燃料及び油脂類について	19
慣らし運転について	21
始業前点検について	22
バッテリーの接続	22
ブレーキの効きとレバーの遊び	23
タイヤの点検	23
燃料の残量の点検	23
エンジンオイルレベルの点検	24
エンジンの始動と灯火類の点検	25
後写鏡（サイドミラー）の点検	25
反射材（リフレクター）及びナンバーについて	25
ご乗車にあたって	26
エンジンの始動	26
走行開始	26

点検とメンテナンス	29
初回点検	29
メンテナンススケジュール	30
バッテリー	32
スパークプラグ	33
燃料ホース	34
エアフィルター	34
スロットルケーブルの調整	35
油圧ブレーキフルード	35
タイヤ	35
ヒューズ	36
トラブルシューティング	37
車両を保管する場合	37
諸元表	39
保証	40

安全にスクーターをお楽しみいただくために

交通法規を守り、安全第一でライディングを楽しみましょう。スピードを控え、安全の範囲内でスクーターを走らせましょう。

走り出す前に練習を

混合交通に乗り出す前に、広く、また交通量の少ない場所でスクーターの操作に慣れるように練習してみましょう。練習は安全のためには不可欠です。ライディングのためのトレーニングを受講したり、必要に応じて試験や資格等の取得も公道に出る前に行いましょう。

ご自身の安全速度を知りましょう

安全な速度とは、道路状況や、天候、または運転技術などによって異なります。ご自身にとって安全な速度を知っておくことは、交通事故などから身を守る一助ともなります。

雨天には気を付けて

濡れた路面や湿った路面を走行することは危険です。高速走行は避け、またカーブを曲がる時などは特に注意して走行しましょう。雨天時のブレーキ距離は、好天時の倍以上にも伸びる恐れがあることもよく理解しておくこと。

正しくライディングに適したヘルメットを着用しましょう

スクーターに乗るときには必ずヘルメット着用しましょう。顎ひもを締め正しく着用することを忘れずに。

安全な服装に留意しましょう

比較的明るい色彩の、またよく身体に合った服を選びましょう。規格に合格したプロテクターも有効です。グローブも必ず装着してください。

必ずお守りいただきたい保守・点検

下記の各項を必ずお守りください:

- ◇ 始業前点検を必ず行うこと
- ◇ 半年ごとに定められた点検を行うこと。
- ◇ 1年ごとに定められた点検を受けること
- ◇ メンテナンススケジュールに示す点検内容に従うこと。

高温に注意

マフラーは高温になり、やけどする恐れがあります。通行人などがマフラーに触れてやけどする恐れが無いよう、駐車時には十分に注意してください。

不正な改造を行わないこと

車両の安全性を確保するためにも、改造などを行わないこと。

各部の名称について

スクーターをお使いになる前に、それぞれの部品の名称について理解しましょう。

①マフラー	②テール/ブレーキライト	③リアキャリア
④シート	⑤スロットルグリップ/右集中スイッチ	⑥ヘッドライト
⑦フロントウインカー	⑧フロント・右側ショックアブソーバー	



⚠ 警告

リアキャリアの最大荷重は 5 kg です

各部の名称について

①リアブレーキレバー	②後写鏡	③左グリップスイッチ
④グローブボックス	⑤リアショックアブソーバ ー	⑥リアウインター
⑦リアディスクブレーキ	⑧エアフィルター	⑨エンジンユニット
⑩メインスタンド	⑪サイドスタンド	⑫フロントディスクブレーキ
⑬フロント・左側ショックアブ ーバー		



車台番号/エンジン番号

エンジン番号

エンジン番号はクランクケース後部に打刻されています。

注目：

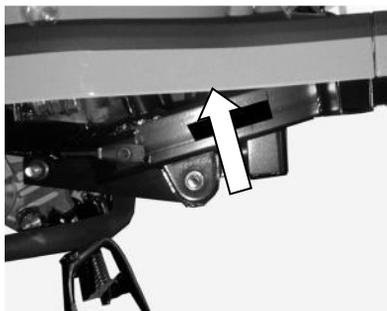
補修部品を正しく発注するためにも、車台番号を控えておきましょう

車台番号

車台番号は、車体右側フレームレールに打刻されています。



エンジン番号



車台番号

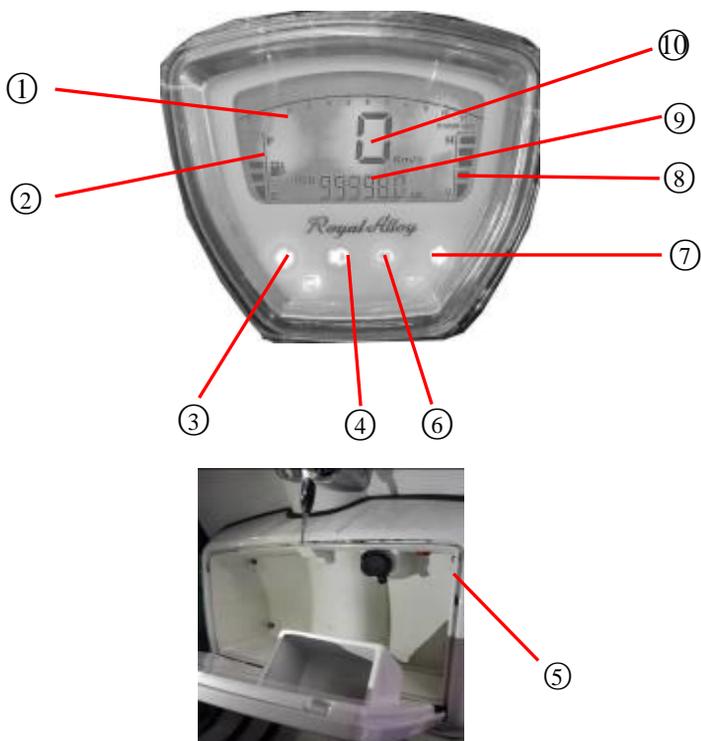
それぞれの番号を以下に控えておいてください。

車台番号：

エンジン番号：

スクーター各部の機能と操作

インストゥルメントパネル (GP125/250)



① エンジン回転計

エンジン回転数をバーインジケータで示します。

② 燃料ゲージ

燃料タンク内の燃料の残量を示します。ゲージがFを指すと燃料タンクは満タンであり、これがEになれば燃料残量が少なく、補充が必要であることを示します。

③ ウィンカー・インジケーター

左右のインジケーターが示す通りに実際の車両のウィンカーが点滅していることを表示します。

④ ハイビーム/ロービームインジケーター

⑤ 「モード」ボタン

オドメーター⇔トリップメーター

- イグニッション・キーを ON に。
- モードボタンを押し、離します。これでトリップメーターとオドメーターを交互に表示させることが可能です。
- 表示がトリップメーターの時に、モードボタンを 5 秒間押し続けると、トリップカウンターをリセットできます。

KPH ⇔ MPH

オドメーター表示時にモードボタンを 5 秒間押し続けると、キロ表示とマイル表示とを入れ替えることができます。

⑥ システム警告灯

この警告灯が点灯したら直ちに運転をやめ、お買い求めの販売店に相談してください。

⑦ バッテリーインジケーター

バッテリーの電圧を表示しますHを指示していればバッテリーは満充電状態であり、Lを示していればバッテリーの補充電が必要です。

⑧ 距離表示計

オドメーター（総合走行距離計）とトリップメーター（区間距離計）を表示します。

⑨ スピードメーター

現在の速度をキロもしくはマイルで表示します。

警告

イグニッションキーを ON にする前に、充電された正しいバッテリーが確実に接続され、緩みなどがないことを確認してください。

イグニッションスイッチ

キーを回すことでパワーオン/オフを切り替えられます。

オン	エンジン始動可能 運転可能 イグニッションキーの取り外し不可能
オフ	エンジンは始動できません 稼働中のエンジンを停止させられます。 イグニッションキーの抜き差しができます。
ロック	ステアリングハンドルがロック（固定）できます。 イグニッションキーの抜き差しができます。

車両から離れる際には、ステアリングロックを行うことで、盗難されにくくなります。

1. ハンドルバーを左に切ります。
2. イグニッションキーを差し込み、キーをさらに押し込んで左に回し、「LOCK」の位置に合わせます。
3. キーを抜きます。

ステアリングロックの解除は、ロック位置にあるキー穴にイグニッションキーを差し込み、押し込まずにそのまま右側にキーを回して OFF の位置に合わせることで行います。



注目：

- ◇ ハンドルバーを動かし、確実にロックされていることを確認しましょう。
- ◇ ロックしづらい時は、わずかに右側にハンドルバーを動かすとロックできることがあります。

ハンドルバー・スイッチについて**① ビーム・スイッチ**

ヘッドライトの向きを入れ替えるために使用します。

HIGH	ハイビーム（上向き）になります。
LOW	ロービーム（下向き）になります。 （通常はこちらを使用します）

② ウィンカースイッチ（方向指示器）

安全な方向転換やレーンチェンジのために、右もしくは左へのターンシグナル（ウィンカー）を点灯させるためのスイッチです。

右	右側のウィンカーが点滅します
左	左側のウィンカーが点滅します。

中央	中央位置でボタンを押し込むことで、ウィンカーの点滅をキャンセルすることができます。
----	---

ウィンカー（方向指示器）はその必要がない場合には適宜消灯し、他の交通の妨げにならないように注意しましょう。

③ ホーンボタン

警音器（ホーン）を鳴らすときに押します。

④ スターターボタン

エンジンを始動させるときに押します。イグニッションキーを ON にし、リアブレーキレバーを握り、ボタンを押してください。リアブレーキレバーを握り、かつサイドスタンドを格納していないと、エンジンはかかりません。



スロットルグリップ ⑤

スロットルグリップは、スピードを調整するために使用します。手前にひねることで（反時計回りに回すことで）エンジンスピードは上昇します。奥に回すことで（スロットルグリップを戻すことで）エンジンスピードを減速させることができます。

ブレーキレバー ⑥

ブレーキレバーの操作によって、スクーターの速度を調整し、徐行させたり停止させることが可能です。ブレーキはレバーをグリップに近づけるように丁寧に引き寄せることで聞かせることができます。後部制動灯（リアブレーキライト）は、右もしくは左手のブレーキが握りこまれることで点灯します。



サイドスタンド ⑦

サイドスタンドは、サイドスタンド後端を強く押し下げ、前方向に止まるまで回転させることで使用します。サイドスタンドが完全に格納されていないと、エンジンは始動できません。

メインスタンド ⑧

メインスタンドは、足でスタンドをまず地面に届くまで押し下げ、次いでスクーター後部を後方に引くようにしてスタンドが確実に出てスクーターを支え、リアタイヤが浮くようにして、使用します。リアキャリアを手でつかむことで、スタンドの出し入れがやりやすくなります。

メインスタンドを使用する際には、必ずスクーターが平面、あるいは坂の上に向かっておかれている状態であること。

スクーター各部の機能と操作

スクーターが坂の下を向いている、あるいは平面ではない、または柔らかく崩れやすい地面ではメインスタンドは使用しないこと。

注目してください

メインスタンドはスクーターの車重だけを支えるようにしか設計されていません。メインスタンド使用時に運転手などが体重を加えないでください。スクーター本体や、メインスタンドにダメージを与えかねません。

燃料油キャップ

燃料油キャップは、シート下に用意されています。キャップをあけるには鍵穴にイグニッションキーを挿入しタブを時計方向に捻りましょう。キーとタブは並行に動きますから、どちらか一方だけを強引に回して開けることが無いように注意してください。キャップを閉めるときには逆の手順で行います。

操作上の注意（Operation Notice）ステッカーが、給油口近くに貼付してあります。

Operation Notice

When the key is inserted, the oil filling port can be opened or closed unless the key and lock cover were rotated at the same time.



シートロック



シートを開くには：

フロントシート後端を丁寧に引き上げてください。

シートを閉じるには：

シート後端をもって丁寧にシートを押し下げ、シート下の吸盤が車体中央にきちんとはまるように押し付けてください。

注目：

シートは必ず手で丁寧に押し下げ、上から落とすようなやり方は避けてください。

フロントラゲージボックス（小物入れ）



⚠ 注意

- ◇ 壊れやすいものは入れないこと
- ◇ 貴重品を入れないこと
- ◇ 燃料や油脂類を入れないこと
- ◇ 濡れて困るようなものは入れないこと
- ◇ ラゲージボックスのロックを忘れないこと
- ◇ ラゲージボックスの最大荷重は 5 kg です
- ◇ リアキャリアの最大荷重は 5 kg です

慣らし運転について

お使いのスクーターの寿命を決定づけるのは、最初の 1000 kmと言われています。この間、正しい慣らし運転を行うことで、スクーターの寿命は最大化され、また存分にその実力を発揮するようになります。製造工程で用いられる部品は極めて高品質な素材で製造され、最大限の精度（最小限の公差）をもって作り上げられています。正しい慣らし運転によって、磨き上げられた金属の表面は柔らかなベッドのように調整され、その後のエンジンのスムーズな動きにつながるでしょう。おおむね 60 時間程度の走行で内部部品の感触が向上し、この慣らし期間中にエンジンは柔らかく滑らかに動くようになり、性能は向上するのです。

慣らし期間中のスロットル開度について

以下の表に示したように、慣らし期間中はアクセルの開度を控えて運転しましょう。

最初の 800 kmまで	スロットル開度は 1/2 以下
801～1600 kmまで	スロットル開度は 3/4 以下

エンジン回転数は幅広く試みましょう

エンジン回転数は一定で走ることなく、様々な回転数を試みましょう。これによってエンジン内部の各部品に適切な負荷がかかったり、休められたりして、慣らしが進行していきます。慣らし運転にはある種の負荷をかけることが必要なものなのです。とはいえ、過度な負荷をかけることが無いよう、アクセル開度の上限を守って、適切にエンジンを回してあげてください。

連続した低速度での走行は避けましょう。

慣らし期間中に一定の低速度でエンジンを走らせることは避けてください。加減速を自在に、決められた範囲内で。ただし最初の 800 kmまでは絶対にアクセル全開にはしないこと。

走り出す前にエンジンオイルを各部にいきわたらせましょう

エンジン始動後、負荷をかけたり回転を上げたりする前に、エンジンを十分に暖気してオイルを各部にいきわたらせましょう。オイルはエンジンにとっての血液です。エンジンの寿命を永らえるためにも、この工程を忘れずに行いましょう。

初回点検を必ず行いましょう

初回 1000 kmの点検は、ご愛用のスクーターにとって最も重要な点検でもあります。慣らし運転の間、エンジン内のコンポーネンツが動き、緩み、または偏ったりと様々なことが起きます。点検でこれらをリセットし、すべての締結部品を締めなおし、古いオイルを新しく入れ替えましょう。1000 km時における適切なメンテナンスは、エンジンの寿命を延ばし、その後の点検間隔も適切なものにしてくれます。

注意：

初回 1000 km点検は本マニュアルのメンテナンス・セクションに詳述されています。十分に同項の警告や注意に着目しながら点検を実施してください。適切な点検を受けなかった場合、車両の保証の適用外となります。

始業前点検について

スクーターにお乗りになる前に、以下の各項の始業前点検を行いましょ。点検を軽んじないこと。必ずすべての項目の点検を行ってから乗車してください。

 **警告**

バッテリーが満充電であること、バッテリーが適切に固定されていること、バッテリーのターミナルやコネクターがきちんと固定されていることをまず確認してください。バッテリーとコネクターのゆるみは、ECUのような重要電装部品を破壊しかねません。

点検部位	点検内容
ステアリングハンドル	1) スムースに左右に動くこと 2) 動きに引っ掛かりや違和感がないこと 3) 不必要な遊びやがたつきがないこと
ブレーキ	1) レバーの遊びが適切であること 2) ブレーキの作動に異常がないこと
タイヤ	1) 適切な空気圧であること 2) 十分に溝の深さが残っていること 3) ひび割れ、切り傷などがないこと
燃料	十分な燃料が入っていること
灯火類	ヘッドライト、テールライト、ブレーキライト、ウインカーなどすべての灯火類が作動すること
指示器	オイル警告灯やそのほかの警告灯の不具合がないこと
ホーン	正しく機能すること
エンジンオイル	正しいレベル（量）にあること
スロットル	1) スロットルの遊びが適切であること 2) スロットルを離れた際に、スムーズかつ適切に全閉まで戻ること

ブレーキの利き具合とレバーの遊びの点検

ブレーキレバーをブレーキが利き始める（握って硬さが感じられる）まで握りこみます。
レバー先端の移動距離（遊び）が10 - 20 mmになるよう調整してください。

タイヤの点検

1. タイヤの空気圧

タイヤの状態を外観からよく確認し、次いで空気圧を点検します。タイヤ空気圧が異常な場合、以下の推奨空気圧に調整してください。

フロントタイヤ	32psi
リアタイヤ	34psi

2. ひび割れ、痛み、異物の噛みこみや刺さり、異常損耗

タイヤの表面を点検しましょう：

- ◇ 明らかなタイヤの異常や損傷はないか？
- ◇ 釘や石、ガラスの破片などがタイヤの溝に刺さっていないか？
- ◇ 異常摩耗、偏摩耗はないか？

リフレクター及びナンバープレートの点検

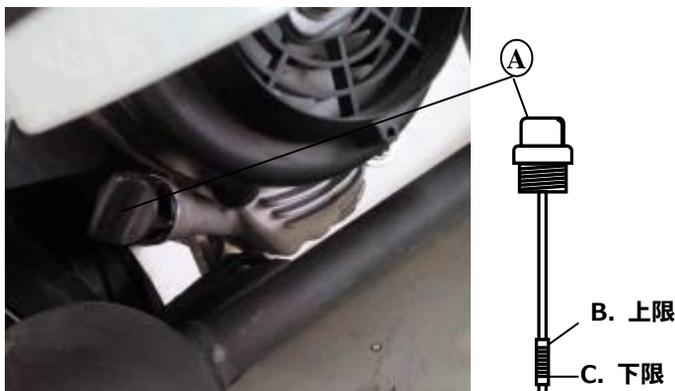
ナンバープレートやリフレクターが汚れていたり、損傷していないことを点検してください。
また、ナンバーが確実に取り付けられ緩みがないこと、後方からきちんと視認できることを確認して下さい。

燃料の残量の点検

目的地に行くか、近隣のガソリンスタンドまで行ける十分な量の燃料があることを確認しましょう。もしメインキーを ON にした時の燃料ゲージの表示が赤を指している場合は燃料切れが間近ですから、なるべく早く給油してください。

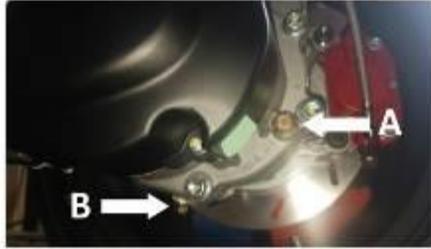
エンジンオイルレベルの点検

注意！オイルレベルは必ずゲージの上限、図の B までの間にあるようにしましょう。エンジンに深刻なダメージを与える恐れがあるため、上限値 B 以上の量を入れたり、下限 C の位置を下回ったりしないよう、注意してください。エンジンオイル量の適切な管理は、使用者の義務です。



1. 車体をメインスタンドを用いて水平状態に固定します。
2. エンジンを始動し、オイルが十分にエンジンにいきわたったのち、エンジンを停止させます。
3. 5 分間待ちエンジンオイルがクランクケースまで戻ってから作業を開始します。
4. オイル注入キャップ/ディップスティックを緩め、外します。
5. ディップスティックに残っているオイルをきれいに拭い、再び所定の位置に入れます。ただし、ねじ込まないこと。オイルに漬けた後すぐに取り外し、オイルレベルを確認します。オイルレベルが図示の B と C の間にあることを確認してください。
6. 必要に応じて、オイル(MOTUL SCOOTERPOWER LE)を継ぎ足してください。ただし、上限値である図の B を超えて入れることが無いように注意すること。
7. ディップスティックを確実にねじ込んで取り付けてください。

トランスミッションオイルレベルの点検



1. エンジンを始動し、オイルが十分にエンジンにいきわたるようアイドリングさせ、エンジンを止めます。5 分間待ってからオイルレベルの点検を行います。
2. 図(A)のオイルフィラーズクリューを緩め、オイルレベルがオイルフィラーのちょうど注入口にあることを確認します。
3. 必要に応じて、図 (A) からトランスミッションオイル（ハイポイド EP80W-90 MOTUL Gearbox 80W-90）を補充してください。
4. トランスミッションオイルの交換には、ドレンプラグ(B) を抜き、すべてのトランスミッションオイルを抜き去ってください。オイルフィラー口から新しいオイルを必要量注入してください。
5. オイルフィラーズクリュー(A)を締め付けてください。

エンジン始動と灯火類の点検

エンジンを始動し、ヘッドライト及びテールライトが点灯することを確認します。

前後のブレーキを別々に作動させ、ブレーキライトが点灯することを確認してください。

また、ターンシグナルスイッチを操作し、ウィンカーがきちんと動作することを確認してください。

後写鏡（サイドミラー）の点検

シートに着座し、運転姿勢をとったときに、ミラー内で左右後方が確認できることを点検してください。ミラー鏡面が清潔なこと、傷や割れなどが無いこと、およびハンドルバーに適切に取り付けられ緩みがないことを点検します。

ご乗車にあたって

注意

エンジン始動前に、必ず以下を確認しましょう

1. 燃料とエンジンオイルの量を点検
2. スクーターをメインスタンドで立てる
3. 車体が水平かつ硬質な路面に立てられ安定していること
4. ブレーキをかける

エンジンの始動

イグニッションキーを挿入し、右に捻って ON にします。

エンジンが冷えているときは

1. 前または後のブレーキレバーを握り、スロットルを 1/8-1/4 回転程度開けて保持します。
2. エンジンがかかるまでスターターボタンを押します。
3. スロットル開度を約 30 秒ほどそのまま保ち、エンジンがストール（停止）しないよう、エンジンが温まるのを助けます。

エンジンが温まっているときは：

1. 前または後のブレーキレバーを握り、スロットルを 1/8-1/4 回転程度開けて保持します。
2. エンジンがかかるまでスターターボタンを押します。

注意：

エンジンがかかったらすぐにスターターボタンから手を離すこと。そうしないと、スターターモーターやリンクギアに損傷を与える可能性があります。

走行開始

- a) メインスタンドを外します
- b) スクーターにまたがりましょう

ハンドルバーを両手で持ち、前後のブレーキを保持しながら、左側から乗車します。シ

ートにまたがり左足で体を支えましょう。

 **注意**

走り出すまでスロットルグリップを開かないこと

c) 周囲をよく見て、安全に走り出せることを確認します

方向指示器（ウインカー）を出し、周囲をよく確認して走り出しても問題ないことを確認して下さい。走り出すまではリアブレーキレバーを確実に握っておきましょう。

 **注意**

特に後方から接近する車両などに十分注意を払うこと

d) 走り出しましょう

リアブレーキレバーを離し、スロットルグリップを徐々に開けて、スクーターを加速させていきます

 **注意**

スロットルグリップを大きく開けすぎると、急加速などの危険を引き起こしかねません

e) スピードを調整します

スクーターを走らせるスピードは、スロットルグリップのひねり具合で調整します。グリップを手前側にひねれば速度が増しますから、ゆっくりとひねるように気を付けましょう。減速はスロットルを戻して行います。

f) ブレーキレバーを引き、停止します

前後のブレーキは常に同時に使用するように心がけましょう。

スロットルグリップから手を緩め、素早く戻して、ブレーキレバーを適切に引き込みます。ブレーキは徐々にかけ、急ブレーキを避けるとともに、特に濡れた路面や荒れた路面では十分に注意を払きましょう。

 **注意**

前後いずれかのブレーキを強く握ることは、スリップの危険性につながります。急ブレーキや急旋回はトラクションの喪失や事故の第一原因です。こうした急激な操作は避けましょう。

雨天や冬季などは特段の注意を払って運転を

荒れた、あるいは濡れた路面はタイヤのグリップを低下させます。こうした条件では加速中の急旋回などは避けましょう。前方の車両とは適切な車間距離を維持しておきましょう。雨天時の制動距離は一般に乾燥した路面の 2 倍程度に上ることを理解し、注意を払って運転しましょう。

スリップは濡れた路面や凍結路面では避けられないものです。従い、運転に集中し、いつでも速度を落とせるよう十分に注意して運転しましょう。

スクーターを洗車したり雨天や水たまりを走った後は、ブレーキの点検を

スクーターを洗車した後や、水たまりを走り抜けた後などは、制動力が弱まっていることがあります。ブレーキが通常通り動作するように、速度を落とし、丁寧なブレーキングを行って様子を見ましょう。

注意

スクーターをメインスタンドで直立させているときは、転倒しないよう、必ず水平な地面の上に保持し、下り坂を向けたり、柔らかい路面に立てたりしないこと。必ずスクーターは水平面か、坂の上を向けて直立させ停車すること。

ハンドルバーロックをしましょう

スクーターを停車させるときは、必ずステアリングロック（ハンドルバーロック）を行い、盗難されないようにしましょう。

点検とメンテナンス

メンテナンススケジュールには、定期点検の間隔について期間と距離が示されています。それぞれ定められた期限の早い方が来たら、指示に従って車両を点検、調整してください。もしお使いの環境がスクーターに大きな負荷がかかるような状況、例えば頻繁にエンジンを全開にしたり、埃っぽく空気の汚染された環境下であったりした場合には、こうした定期点検はより頻繁に（短期間あるいは短走行距離で）行いましょう。そうすることで、スクーターの信頼性を維持できるようになります。お買い求めの販売店はさらに詳しく説明できますから、ご遠慮なくご相談ください。ステアリング関係の部品やサスペンション、ホイールなど操舵系の部品は非常に重要な部品であり、極めて注意深く取り扱い、点検する必要があります。安全を最大限確保するためにも、これらについてはお買い求めの販売店が、有資格のメカニックの手に委ねましょう。

初回点検

1000 km走行時の初回点検は最も重要です。慣らし運転期間中に、あらゆる部品は互いに擦り合わされ、エンジン内部の熟成がすすみます。初回点検ではこうした部品のすり合わせを調整しなおし、締結部品の正しいトルクでの締め直しを行い、汚れたエンジンオイルとフィルターの交換を行います。

エンジンの寿命を長く保ち、存分に能力を発揮できるよう、初回点検はタイミングが来たら速やかに行ってください。

注意

必ず交換部品は純正の補修部品を使用してください。また、メンテナンススケジュール上で（*）マークで示した個所については、正規販売店での作業を強くお勧めします。それ以外については、本項で示す解説に則って、個人で点検していただくことも可能です。ただし、このスケジュールにある点検を定められたとおりに実施されない場合、お使いのスクーターへの保証は提供できないことがありますこと、予めご了承ください。

メンテナンススケジュール

このスケジュールに示す各項目は、当該点検タイミングで行うべき最も重要な項目です。必要に応じて、また車両の状況に応じて点検範囲は適宜広げてください。

	600 miles (1000 km)	2500 miles (4000 km)	5000 miles (8000 km)	7500 miles (12000 km)	10000 miles (16000 km)	12500 miles (20000 km)	15000 miles (24000 km)	17500 miles (28000 km)	20000 miles (32000km)	22500 miles (36000 km)	25000 miles (40000 km)
トルクカムと周辺部品			L		L		L		L		L
締結部品のゆるみ、規定トルク	I		I		I		I		I		I
ベルトカバー内のスライダ			R		R		R		R		R
クラッチベル		C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
スパークプラグ			R		R		R		R		R
Vベルト			R		R		R		R		R
スロットルコントロール	A		A		A		A		A		A
エアフィルター		C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
トランスミッションカバー/エアダクトフィルター			I		I		I		I		I
エンジンオイルフィルター	R		R		R		R		R		R
バルブクリアランス			A		A		A		A		A
ブレーキシステム	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
電装品とバッテリー	I		I		I		I		I		I
ブレーキフルード **	I		I		I		I		I		I
ギアオイル	R		I		R		I		R		I
エンジンオイル*	R	I	R	I	R	I	R	I	R	I	R
ヘッドライトの向き調整			A		A		A		A		A
ウェイトローラー			R		R		R		R		R
試運転	I		I		I		I		I		I
ドライブ（ブリー）フェイス			I		I		I		I		I
ラジエーター	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C
タイヤ&ホイール	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
サスペンション			I		I		I		I		I
ステアリング	I		I		I		I		I		I
トランスミッション（CVT）			L		L		L		L		L
燃料ホース***	I		I		I		I		I		I
ベアリング	I	I	I	I	R	I	I	I	I	R	I

用例: I=点検、清掃、調整、注油、必要に応じて交換

C=清掃

R=交換

T=締結

トルク管理表

ボディと各部を締結しているボルト類のトルク管理を、初回は 500 km 時に、その後 3000 km ごと、あるいは 6 か月ごとに行ってください。

指定トルクは以下の通り

No.	箇所	N・m	kg・m	Ft-lbs
1	フロントアクスルナット	53	5.3	40
2	ハンドルバーマウントボルト	49	4.9	36
3	ステアリングステムナット	30	3.0	22
4	ハンドルバー固定ボルト	25	2.5	18
5	フロントフォークマウントボルト	45	4.5	33
6	マスターシリンダーマウントボルト	10	1.0	7.5
7	ブレーキホースユニオンボルト	23	2.3	17
8	ブレーキキャリパーマウントボルト	26	2.6	19
9	ブレーキブリーダーニップル	7.5	0.75	5.5
10	フロントパネルボルト	23	2.3	17
11	リアアクスルナット	120	12.0	88
12	リアショックボルト	29	2.9	21
13	リアブレーキレバーナット	11	1.1	8
14	エンジンブラケットマウントボルト	98	9.8	72
15	エンジンマウントボルト	80	8.0	59

バッテリー

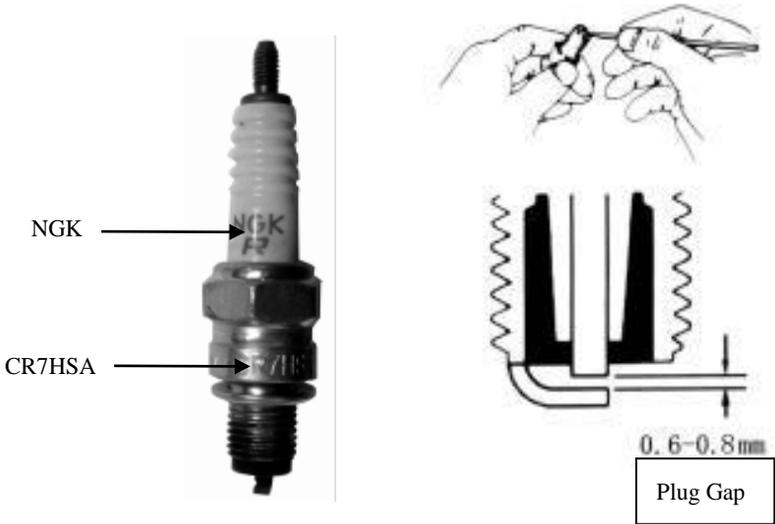


バッテリーはシート下、ボディ中央の取り外し可能なカバーの奥に位置しています。バッテリーはメンテナンスフリーのシールドタイプバッテリーで、液面や縦横上下などを管理する必要はありません。

⚠ 注意

もし車両を 2 週間以上使用しない場合には、バッテリーをトリクル充電器に接続し、満充電を維持できるようにしましょう。

スパークプラグ



小型の銅製のブラシなどを用いて、初回 500 km、その後は 3000 kmごとに、プラグの電極周辺に付着したカーボンなどの堆積物を清掃してください。スパークプラグギャップ（図示）を 0.6-0.8 mm に調整しましょう。6000 km 走行ごとに、プラグは新品に交換してください。

カーボンの堆積物を取り除く際には、スパークプラグの電極部分の色にも注目してください。電極の色は、標準のスパークプラグがお使いのシチュエーションに合致しているかどうかを見極めるヒントになります。もし電極が黒くすぶっていた場合、近距離の使用に限られ、エンジンが十分な温度に達していない使い方が疑われます。こうした場合は熱価の高いプラグを使用しましょう。正しく選択されているプラグは、明るい茶色（きつね色）をしているものです。プラグが白くなっている場合は、オーバーヒート気味が燃料が薄いことを意味しているため、車両を正規販売店に持ち込み、点検してもらう必要があります。

⚠ 注意

スパークプラグの締め付け過ぎには十分注意しましょう。シリンダーヘッドに損傷を与えないためにも、スパークプラグホール（穴）から異物がシリンダー内に落ちたりしないよう十分注意し

点検とメンテナンス

てください。

このスクーターに用意された標準スパークプラグは、ほとんどのスクーターの動作環境を満たすように選ばれたものです。もしスパークプラグの焼け色が、標準プラグ以外の使用を求めるほどに変化していた場合には、プラグを交換したり番手を変える前に、一度お買い求めの販売店に相談しましょう。不適切なプラグの選択は、エンジンに深刻なダメージを与える可能性につながります。

燃料ホース

2年ごとに必ず燃料ホースは交換すること

エアフィルター

このスクーターに採用されているエアフィルターエレメントは、紙製のエレメントに成形されたアウトージャケットをかぶせた作りになっています。もしフィルターエレメントがほこりなどで目詰まりしてしまうと、吸気抵抗が増えるため、空燃比が濃くなり、結果として出力の低下と、燃費の悪化につながります。以下の手順に従い、エアフィルターエレメントを点検、清掃してください。

1. スクリューを緩める
2. フィルター固定スリッパを2か所、後方にスライドさせるように外す。
3. エアフィルターカバーを外す。
4. フィルターエレメントを外す。
5. エアコンプレッサーなどを用いて、フィルターエレメントを清掃する。

1000 kmごとに清掃、6000 kmごとに交換してください。

注意

1. エレメント清掃の際は、エレメント本体に破れなどが無いことをよく観察すること。傷んだフィルターエレメントは必ず交換すること。
2. 埃が多い環境を走らせたのちは、規定以上に頻繁にエアフィルターエレメントの清掃を行うこと。
3. エアフィルターエレメントなしでエンジンを始動しないこと。
4. 常時、エアフィルターエレメントは完全な状態にあるよう手入れすること。エンジンの寿命は、エレメントの状態に大きく左右されます。

スロットルケーブルの調整

1. ロックナットを緩めます。
2. 遊びを 0.5-1.0 mm の範囲に調整します。アジャスターを回転させ、適切な遊びになるよう調整してください。
3. ロックナットを再び締結しましょう。

油圧ブレーキフルード

ブレーキフルードは前後とも DOT 4.1 グレード（グリコール・ベースの油圧ブレーキ専用フルード、MOTUL DOT3&4）を使用すること。シリコンベース、あるいはミネラルオイル・ベースのフルードと混在させないこと。ブレーキフルードの異種混用はブレーキシステムに深刻なダメージを与える可能性があり、また制動力が大幅に減じられる恐れがあります。加えて、過去の整備などで使った残りのフルードなどを使用しないこと。ブレーキフルードは吸湿性が高く、ひとたび開封したフルードは所定の能力を発揮しません。

注意

ブレーキフルードをマスターシリンダー・リザーバーに入れすぎたり、余らせたフルードを塗装表面などに付着させないこと。フルードの付着は塗装面への深刻なダメージにつながります。

タイヤ

走り出す前には必ずタイヤの空気圧の点検と、タイヤ表面に異物がないかの点検を行うこと。安全性の観点から、またタイヤの寿命からも、タイヤの空気圧は定期的に点検し特に長距離のツーリングや二人乗りの前には十分注意すること。

タイヤ空気圧

不十分なタイヤ空気圧は、タイヤの寿命を縮めるばかりか、スクーターのスタビリティに深刻な影響を与えます。空気圧が低すぎるとコーナリングは困難になり、高すぎると接地面が減って、滑り出したり操作不能になりがちです。タイヤ空気圧は指定の範囲内

点検とメンテナンス

にあるように十分注意してください。また、タイヤ空気圧は冷間時に測定してください。

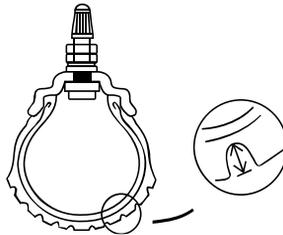
冷間時のタイヤ空気圧

前輪	32psi
後輪	34psi

⚠ 注意

タイヤの空気圧とタイヤの状態は、スクーターが所定の能力を発揮し、また安全にご利用いただくためにも極めて重要です。タイヤの摩耗や空気圧は頻繁に点検するようにしましょう。

タイヤ接地面の状態の点検を



ひどく摩耗したタイヤでの運転はスクーターのスタビリティを損ない、操作不能へとつながりかねません。タイヤトレッド（溝）の深さが 1.6 mm またはそれ以下になる前に、タイヤは交換しましょう。

⚠ 注意

このスクーターのフロントタイヤは 110/70-12、リアタイヤには 120/70-12 が指定されています。指定タイヤ以外のタイヤの使用は、車両とのクリアランスに問題が生じる恐れがあるほか、保証の適用外となります。

ヒューズ

ヒューズはバッテリーのすぐそばに配置されています。電気系統の不具合の場合、まずはヒューズを点検してください。もしヒューズが焼けてしまっている場合、10A の予備ヒューズ

ーズがヒューズホルダーに用意してあります。

⚠ 注意

ヒューズ交換の際には、必ず正しいヒューズを正しいアンペアで用意してください。決してアルミホイルやワイヤーのような代替物を使用しないこと。スペアヒューズに交換してもすぐにヒューズが切れてしまうような場合は、電装系にそのほかの問題が生じていると思われる。必ずお買い求めの販売店に連絡を取ってください。

トラブルシューティング

⚠ 注意

どのような問題であろうと、まずはお買い求めの販売店に連絡を取っていただくのが最善です。特に車両が保証期間内にある場合は、必ず販売店に連絡を行ってください。ご自身で車両を不用意に触ることは、車両の保証を失効させることにつながりかねません。

車両を保管する場合

冬季など、長期にわたって車両を使用しないで保管する場合、車両は知識のあるものが特別な道具を持って整備し対応する必要があります。このため、長期保管に当たってはまずは販売店に委託していただくことが間違いありません。もしどうしてもご自身で面倒を見なくてはいけない場合、以下の各項を参考にしてください。

スクーター

車体をメインスタンドで立て、また全体を丁寧に掃除しましょう。

燃料

燃料タンクを空にし、エンジンを数分駆動して残りの燃料をすべて使い切りましょう。

バッテリー

バッテリーをスクーターから取り外します。

バッテリーの外側を中性洗剤などで洗浄し、ターミナルやワイヤリングハーネスに錆が見られれば丁寧に取り除きます。取り外したバッテリーは 0 度以上の室温で保管し、かつ適切なトリクル充電器などにつなげておいてください。

タイヤ

タイヤ空気圧は通常通りにしてください。

外装

ビニールあるいはゴム部品など（タイヤを除く）はゴム保護剤などをスプレーしておきましょう。

非塗装面の金属には、WD-40 や CRC-556 のような防錆剤をスプレーしておきましょう（ただしブレーキディスクやキャリパーにはかけないこと）。

塗装面は高品質のカーワックスなどで保護してください。

再び乗れる状態にするには

スクーター全体を清掃します。

無鉛ガソリンを給油します。

満充電のバッテリーを改めて装着します。

タイヤ空気圧を正しく調整します。

このマニュアルにある必要な個所を潤滑します。

このマニュアルにある必要な点検（始業前点検）を行います。

諸元表

モデル名	GT125	GT250
車体寸法 (mm)	1845×670×1115	1845×670×1115
軸距 (mm)	1390	1390
車両重量 (Kg)	130	152
最大荷重(kg)	280	340
燃料タンク容量 (L)	10.5	10.5
エンジンタイプ	1P52QMI	1P72MM
アイドルスピード	1600 ±100 rpm	1700 ±100 rpm
エンジン型式	空冷水平単気筒	空冷水平単気筒
内径 x 行程 (mm)	52.4×57.8	72.0×60.0
総排気量 (ml)	124.6	244.0
圧縮比	10.5:1	11.0:1
最高出力(kW/r/min)	7.2/7500	15.9/8000
最大トルク(Nm/r/min)	9.2/7000	21.0/6500
始動方式	セルフスターター	セルフスターター
エンジンオイル(950ml)	SAE 10W/40 SG	SAE 15W/40 SG
潤滑方式	飛沫圧送式	飛沫圧送式
トランスミッションオイル 170ml	EP 80w-90	EP 80w-90
燃料(無鉛ガソリン)	94 オクタン以上	94 オクタン以上
フロントタイヤサイズ	110/70-12	110/70-12
リアタイヤサイズ	120/70-12	120/70-12
フロントタイヤ空気圧	32 PSI	32 PSI
リアタイヤ空気圧	34 PSI	34 PSI
フロントブレーキ	ディスク	ディスク
リアブレーキ	ディスク	ディスク
スパークプラグ	NGK CR7HSA	NGK CR7HSA
ヘッドライト	12V 35/35W or LED	12V 35/35W or LED
ウインカー	12V LED	12V LED
テール/ストップ	12V LED	12V LED
インストゥルメント	12V 3W	12V 3W
バッテリー容量	12V 9Ah	12V 9Ah
ヒューズ	10A	10A
ホーン	12V 1.5A, 90-100dB(A)	12V 1.5A, 90-100dB(A)
最大騒音	≤7m ≤82dB(A)	≤7m ≤82dB(A)

保証

車両保証の内容と条件について

ロイヤルアロイのスクーターには、登録日より1年間、距離15000kmの車両保証が付属されています。ただしこれには通常の使用における損耗、消耗品及びその工賃は含まれません。

すべての修理、作業にはロイヤルアロイ純正部品の使用が義務付けられます。

保証を受けるためにはこのマニュアルに定められた定期点検を適切に正規ディーラーで受けていただく必要があります、これはオーナーの義務でもあります。

販売店は、定期点検記録をつけ、これをロイヤルアロイ社（モータリスト社を經由して）に報告する義務があります。また、納車時には保証登録書（PDIシート）を記入し、お客様にご確認いただき、ご署名いただく必要があります。お客様はこうした保証登録書や作業記録のコピーを受け取り、記録として残す権利を有しています。

ロイヤルアロイのスクーターは初回1000kmまたは6か月の点検ののち、3000km走行、あるいは6か月後のいずれか早いタイミングごとに定期点検を受ける必要があります。

保証対象外の部品について（ただし製造上の不具合を除きます）

スパークプラグ、フューエルストレーナー、オイルフィルター、ドライブベルト、エアクリーナーエレメント、ブレーキパッド、クラッチディスク、ローラーウェイト、ライトバルブ、ヒューズ、ガスケット、タイヤ、グロメット、ゴムホース、ゴムクッション、その他のゴムプッシュ等消耗部品、転倒、事故、または過失による損傷、油脂類、ガソリン。錆び、塗装の色あせ等も保証の対象外です。

6 か月間の限定保証

バッテリー、サイドスタンド、メインスタンド、シート、ホイールリム（歪み）、塗装部品およびメッキ部品（マフラーを含む）、ステッカー及びエンブレム

以上に相当しないすべての部品やコンポーネントは、製造上に起因する、あるいは材料に起因する欠陥等については、保証の対象となります。ただし、通常の損耗、過失、誤用、偶発的な損傷は含まれません。また、当該部品などが単に使用期限を超えて損耗しているとみなされる場合も、保証ではなく一般サービスの範囲で交換していただくこととなります。

販売店の責任

ロイヤルアロイの保証を提供するため、販売店は以下の各項に従う必要があります。

- 1.1: 車両をその登録日で適切にモータリストに対して保証の発効を報告すること（SWR フォームを返送）。
- 1.2: 車両のメンテナンスにはロイヤルアロイ純正部品を使用のここと。
- 1.3: 車両に対して行われたサービスは適切に記録し、求めに応じてモータリストに提供できるよう保存すること。

これらの条件を守らない場合、その後の保証については販売店が責任をもって負うこととなります。

2. 保証請求のためには、定められたメンテナンススケジュールに従った定期点検が行われ、かつロイヤルアロイ純正部品を使用したサービスが実施されていることが条件となります。正しい点検が行われていることを確認し、また点検の際に必要な消耗品等の部品代の負担を負うことはオーナーに求められた義務です。正しく点検がスケジュール通り

に行われていないと保証は受けられませんから、これを確認することもまたオーナーの義務でもあります。

3. 保証は異常個所における無償の部品交換、もしくは修理に限定されます。この部品交換や修理は正規販売店のみに許された行為です。

4. 製造者である RA エンジニアリング社、および輸入者であるモータリスト合同会社の責任は保証条件に示されているとおりです。購入者はこれ以外についてクレームしたり、輸送費や宿泊費、収入の欠如などを理由に両社に求償することはできません。

5. 保証は以下の場合無効となります。a) 商品がマニュアルに準じて適切に使用されておらず、またマニュアルに示された定期点検を適切に受けしていなかった場合。b) 商品がロイヤルアロイ指定の正規販売店以外でサービスされたり、純正以外の部品が使用されていた場合。c) マニュアルで指定あるいは推奨されていない油脂類やケミカルが使用されていた場合。d) 商品がレンタル用、あるいは商用目的で使用されていた場合。e) 商品に加工、改造が行われていたり、商品が事故に遭遇したことがあった場合。f) 商品がその製造目的とは異なる用途に用いられていた場合、例えばクローズドサーキットにおけるスポーツイベントやオフロードでの使用、フリースタイルなどでの使用が認められた場合。g) もともと商品にない部品を取り付けたり、社外品を取り付けていた場合。

6. 通常の損耗や、車両を通常使用していることに伴う損耗は、製造上の不具合がない限り、保証の対象外となります。タイヤやチューブの交換、灯火類、スパークプラグ、ヒューズ、ゴム部品、ブレーキパッド、クラッチ、ブレーキケーブル、クラッチケーブル、スピードメーターケーブル、オイルシール、ブレーキディスク、ドライブベルト、フィルター、油脂類、クーラントなどは保証の対象外となります。さびや退色などもまた、保証の対象外となります。

7. プラスティック部品やボディパネルについては、製造上の不具合等であることが、新車としてお客さまにお渡しするときに確認できたものに限って、保証されます。

8. バッテリーへの保証は 6 か月以内とします。

9. RA エンジニアリング社はいかなる保証申請についても最終判断を下す権限を有しません。

10. 本マニュアルに掲載されている画像や色は、あくまでも参考としてください。車両の詳細、価格、仕様は予告なく変更されることがあります。

MEMO:

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

Owner's Manual



RA Engineering Co., Ltd